

ARFANEWS

発行所 / スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 〒164-8604東京都中野区弥生町1-30-17 (有)ブックハウス・エイチディ内 電話03-3372-6251

今後の事業案内
平成11年度第17回研修会のお知らせ

当研究会の第17回研修会の開催要項が決定いたしましたので、お知らせします。

テーマは前号に掲載いたしました「スポーツ選手のリコンディショニング～スポーツフィールドに必要な後遺症対策～」とし、日常の臨床やスポーツ選手と接する中、多くの方の悩みの種である「後遺症」につい

て、スポーツ医療や医学の進歩、現状、展望など、総論から国際大会や日常スポーツ現場における対応を含め、各分野でご活躍の先生方にご講演頂きます。

また、これからのスポーツ選手はもちろん、一般人にも必要な概念として「リコンディショニング」を捉え、リコンディショニングの概念、方法、経済、環境など、多方面からディスカッションするシンポジウムも開催します。準備委員一同、実り

多い研修会とすべく、鋭意準備中です。多数のみなさまのご参加をお待ち申し上げます。

開催要項

会期：平成11年10月23～24日（土～日）

会場：川崎市産業振興会館（神奈川県川崎市幸区堀川町66-20）

JR川崎駅西口下車徒歩8分（線路沿い東京方面）

京急川崎駅徒歩7分（JRのガード下くぐり、右の階段上がる）

第17回研修会プログラム

〔第1日 10月23日〕

- 10：00～10：40 基調講演「スポーツ医療の進歩と後遺症への対応」
城所靖郎・城所整形外科
- 10：50～12：20 シンポジウム 「国際競技大会現場における後遺症への対応」
浦辺幸夫・広島大学医学部保健学科
小林寛和・&スポーツ医・科学研究所
津田清美・ゴールドウインスポーツサポート
助言者 城所靖郎（同上）
司会 寺園圭一・第17回研修会長、城所整形外科
- 12：20～13：30 昼休み
- 13：30～15：30 一般演題発表1・2部
- 15：50～16：30 企業プレゼンテーション
- 16：40～18：30 一般演題発表3・4部
- 19：00～21：00 懇親会

〔第2日 10月24日〕

- 9：30～10：30 特別講演「日常スポーツ現場における後遺症対策」
福林 徹・東京大学
- 10：40～12：20 シンポジウム 「リコンディショニング」
第1部 スポーツ選手に対するリコンディショニング
- 12：20～13：30 昼休み
- 13：30～15：30 第2部 新しい概念としてのリコンディショニングの展望
シンポジスト：黒澤 尚・順天堂大学医学部整形外科
川原 貴・東京大学
川野哲英・&日本体育協会スポーツ診療所
松田孝幸・スポーツコンディショニングプロモーションJIN
山本利春・国際武道大学
蒲田和芳・横浜市スポーツ医科学センター
江本 章・アーバンデザイナー（VTR出演）
コーディネーター：清家輝文・ブックハウスHD
- 15：30～ 閉会式

参加費：前納(カッコ内は当日払い)
 会員 15,000(18,000)円
 学生会員 9,000(12,000)円
 非会員 一般 25,000(28,000)円
 学生 12,000(15,000)円

申し込み方法

8月1日より参加費の入金をもって申し込み受付とします。入金の際は個人名にてお願いします。ご入金の際には氏名、電話番号を入力し、上記該当金額をお振り込み下さい。なお、領収書が必要な方は振込票の控えを当日受付にお持ち下さい。

振込先 富士銀行新宿支店
 普通口座 4667432

口座名「スポリハ研究会」

問い合わせ方法

往復ハガキ、FAXにて、問い合わせ内容をお送り下さい。

問い合わせ先

〒102-0076東京都千代田区五番町5-1
 第8田中ビル3F 城所整形外科内
 「第17回研修会事務局」宛
 FAX 03-3234-1614

平成11年度第8回ワークショップのご案内

第8回ワークショップについて、現在確定している事項についてお知らせします。参加申し込み方法、参加費、宿泊など詳細については、次号本ニュースに掲載の予定です。

第8回ワークショップ

日程：平成12年2月5～6日(土～日)

場所：熊本市

定員：50名

テーマ：肩関節外傷に対するアスレティック・リハビリテーションの実際

プログラム：

講義1「肩関節の運動学」

講義2「肩関節の外傷」

講義3「肩関節外傷の評価」

講義4「肩関節に対するアスレティック・リハビリテーション」

実技1「肩関節脱臼・亜脱臼に対するアスレティック・リハビリテーションの実際」

実技2「投球障害に対するアスレ

ティック・リハビリテーションの実際」

問い合わせ先

準備委員長 日野邦彦(熊本機能病院)

TEL 096-345-8111 FAX 096-345-8188

事業報告

平成11年度第1回講習会報告

去る平成11年6月6日(日)横浜市スポーツ医科学センターにおいて「急性スポーツ外傷の救急処置の理論と応用」をテーマに本年度第1回の講習会が開催され、135名(会員74名、一般61名)の受講者を集めました。スポーツ現場では定着した救急処置としてのicingですが、実際にその生理的効果や限界については深く理解されずに施行されている場合が多いのも事実です。今回の講習を通じて、靭帯の修復過程や冷却の効果についての知識、さらにはそれらを踏まえた現場での救急処置の実際について深く学んで頂けたと考えています。次回(第2回講習会)では、「慢性的なスポーツ外傷に対する対応」について、現場で役立つ内容を考えておりますのでご期待下さい。

(学術部 蒲田和芳)

平成11年度第1回講習会に参加したの感想

去る6月6日、横浜市スポーツ医科学センターにて開催された第1回講習会に参加させて頂きました。4つの講義はどれもためになり、自分に刺激を与えてくれるものでした。

福林徹先生の「靭帯の治癒過程とリハビリテーション」では、再建靭帯の治癒過程においての様子や成熟過程を示して頂き、組織学のお話を中心に講義をして頂きました。印象深かったのは肉眼、組織レベルでの治癒と電子顕微鏡レベルでの治癒は異なるということでした。私たちが選手のリスク管理のために知っておくべき靭帯の修復過程について改めて学びました。

池田耕太郎先生の「アイシングの

冷却効果と臨床的意義」では術後のアイシングの効果についての実験のお話を中心となりました。内容は、両側同時手術例で人工膝関節全置換手術後のアイシング効果について、日頃あまり見ることでできない人工膝関節のスライドも見せて頂きながらアイシングシステムの内容も詳しくお話して頂いたので実験内容がよく理解できました。ACL再建後の膝関節内の温度についての実験も含めた結果として、表面温度と疼痛の軽減に有意な効果があり、関節内の温度に関しては下げることが非常に難しいということでした。また、リハビリテーションにおいての寒冷療法については実験の結果、冷却直後の運動能力はアンバランスな神経筋活動によりなされる可能性があるということでした。私たちはリハビリテーションの後にアイスパックやクリッカーを使って患部を冷やしてもらっています。もっとその効果について考えながら、そして更なる効果を念頭において研究工夫をしていかなければならないと感じました。

小林寛和先生の「スポーツ現場における救急処置の工夫」で一番印象に残ったのは「現場においてすばやい患部の評価が非常に大切である」ということでした。そのためには日頃から勉強を重ね、経験を重ねていく必要があると強く感じました。また選手のケガの理解もとても必要なことだと感じました。どんなにトレーナーが処置を施しても選手がその重要性を軽視してしまえば意味のないことになってしまいます。私は医療機関での研修ですが、今後外傷についての勉強を進めていくのはもちろんのこと、現場においてその背景や評価についても積極的に学んでいかなければならないと感じました。

寺園圭一先生の「亜急性期における足関節捻挫への対応」はスポーツ現場において頻繁に発生する内反捻挫のリハビリテーションを中心とした講義でした。このリハビリテー

ションは私が研修している理学療法室でも行われているものでした。これは比較的容易に行われるものですが一つ一つの運動の目的はとても深いところにあります。この目的を患者さん自身にも十分理解してもらって積極的に行うことが必要だと改めて思いました。

どのリハビリテーション運動にも言えることですが、容易に行える運動ほど慣れてしまうと目的からそれた方法で行っていることがあります。私たちは常に正しい方法で行われているかチェックをし、強度回復のためのリハビリテーションを加えるタイミングも考え、早期完全復活を目指したメニューを常に研究していかなければならないと感じました。

今回の講義において学んだこと、感じたことをぜひ今後に生かしていきたいと思っています。

(石井芽久美・東京衛生学園リハビリテーション科1年)

各部・各委員会からのお知らせ ■
平成11年度賛助会員一覧

平成11年7月26日現在の当会賛助会員は以下の通りです(50音順)

[A会員]

オージー技研(株)、酒井医療(株)

[C会員]

アコードインターナショナル(株)、(有)医道の日本社、インターリハ(株)、(株)キャットアイ、共信商事(株)、協和医科器械(株)、三進興産(株)、(有)トータル・ケア・システム、ニッタ(株)、(有)ブックハウス・エイチディ、ミナト

医科学(株)、(株)八神製作所

(事務局)

J A R No.2 今秋刊行

当会編集・発行によるJ A R (Journal of Athletic Rehabilitation) のNo.2を現在編集中です。主な内容は別記の通りです。会員のみならずには、刊行なり次第お届けいたします。

(J A R編集委員会)

インターネット上の当会の活動について

会員専用サイト開設

当会ではすでにホームページを開設していますが、かねてお知らせの通り、会員専用のサイト構築を進めています。現在、インターネット委員会(委員長/加賀谷善教・相模原協同病院)を設置、会員専用会議室にて機能改善を含め、ネット上での企画を検討中です。前回、希望されるパスワードを調査しましたが、まだ全員返送されていません。返送なき場合は、自動的にパスワードが決定されますので、ご注意下さい。

使用方法

まず、当会のホームページにアクセスします(<http://www.atacknet.co.jp/ARFA/index.html> スポーツ医科学総合情報ネット:アタックネット <http://www.atacknet.co.jp>から「LINK」ボタンをクリックしてもアクセス可能)

トップページの「メンバーズルーム」のボタンをクリック。

IDとパスワードの欄が表示される。

規定のIDとパスワードを入力。会員専用サイトのトップ頁(図1参照)が表示される。

上記のパスワードでご希望のものをお知らせいただくため、前回配付のハガキ(各事業への参加希望)の下欄に項目を設けました。また、今後の会員間のコミュニケーションを円滑にするためメールアドレスをお持ちの方にはアドレスも記入していただきました。現在のところ、同ハ

J A R No.2 収録予定のタイトルと執筆者

「第18回オリンピック冬季競技大会/長野トレーナー帯同報告」

浦辺幸夫・広島大学医学部保健学科

「女子ハンドボール選手における膝前十字靭帯損傷の発生に関する検討」

山下光子・こんどう整形外科

「裸足・靴・機能的足底挿板での静的バランス能力について 平衡機能計を用いて」

大久保智明・熊本機能病院

「投球動作で要求される下肢関節機能に関する検討」

宮下浩二・&スポーツ医科学研究所

「荷重位での足関節背屈運動に伴う足部変化に関する一考察」

近藤 修・森整形外科

「脛骨近位抵抗が前十字靭帯不全膝の伸展筋力に及ぼす影響」

藤堂庫治・三菱名古屋病院

「膝蓋大腿関節機能不全の病態～膝蓋骨下方滑動性に注目して～」

井上まゆみ・横浜市スポーツ医科学センター

「立位における股関節屈曲運動の筋力と発揮角度に関する検討」

近藤 仁・井戸田病院

調査 Research 「脛骨過労性骨膜炎の発生要因について」

平野佳代子・&スポーツ医科学研究所

「投球の加速運動における上肢関節運動の検討」

宮下浩二・&スポーツ医科学研究所

「下腿の疲労骨折とアラメント」

鳥居 俊・早稲田大学

「Anterior knee painのメカニズムと下肢アラメント」

蒲田和芳・横浜市スポーツ医科学センター

「足関節・足部のアラメントと外傷」

馬越信行・やまが整形外科

報告 Report 「第13回アジア競技大会(1998/バンコク)における日本代表選手団本部医務班理学療法の活動報告」

小林寛和・&スポーツ医・科学研究所、野村亜樹・&日本体育協会スポーツ診療所



図1 会員専用サイトのトップ頁



図2 当会ホームページのトップ頁

ガキの返送が約1/3程度で、メールアドレスや希望パスワードを明記された方もまだ少数ですが、インターネット環境は急速に普及すると思われます。新たにメールアドレスを取得された会員の方は事務局代行までハガキかFAXでお知らせ下さい（Eメール可）。

この会員専用サイトについては、会員の皆様にIDとパスワードをお知らせします。そのお知らせがお手元に届いた時点から使用可能ということになります。

会員専用サイトの機能

トップ頁には、現在7つのボタンが設置されています。以下、簡単に説明します。

お知らせ

会員の皆様へのお知らせページです。告知事項を随時掲載します。本紙より早く掲載することがありますので、定期的にチェックして下さい。

掲示板

様々な意見交換・情報交換を行う頁。各会員が自由に書き込む「駅の掲示板」と同じ機能です。

会報

最新の会報がここに掲載されています。会報を保管しておく必要がなくなります。やがて、全会員がインターネット環境を持つようになれば、現在の印刷物としての会報ではなく、ネット上で発行するのみとな

る予定です。これによって、印刷代が節約されるほか、ニュースの伝達が一層早くなり、また頻りに発行も可能になります。

ライブラリー

過去の会報のストックや、その他会員が閲覧できる様々な資料をここに収録の予定です。

Eメール

会にメールを送るためのボタンです。

メーリングリスト

特定の会員に同じメッセージを送るときに使用。簡易な会議室機能としても使えます。

会議室

現在「インターネット委員会」をこの会議室で実験的に展開しています。特定のテーマで、参加する人が順次書き込んでいく形式になっています。これまでの発言を一覧し、自分の意見を書くことができるほか、ある発言者に対して、個人的にメールを送信できる機能も付加してあります。

今後は、「評議委員会」始め、様々なテーマでの会議をこの会議室で開く予定です。

全国各地にいる会員と会議ができるこの機能を使えば、交通費や宿泊費が発生せず、支出の節約にもなります。

この会議室は一定メンバー以外は

参加できない形式、会員全員が参加できる形式、全員が閲覧できるが、発言は特定メンバーのみの形式と目的に応じて様々な形式が選択できます。

事務局

バーチャルオフィスとでもいうべき機能で、ネット上に事務局を置き、事務局機能を発揮することができます。物理的空間に事務局を置かないため、経費の節減につながります。

現在の当会のホームページについて

当会のホームページはどなたでも閲覧可能です。トップ頁のメインメニューは、以下の12項目（図2参照）。News、概要、定款、役員、賛助会員、入会案内、催事案内、お知らせ、事業記録、JAR要旨、質問箱、メンバーズルーム。

お知り合いの方で、当会に興味のある方には、このホームページをご覧いただくようご案内下さい（あるいは、必要な頁を印刷して手渡しすることも可能です）。

当会ホームページに関するご要望について

この当会ホームページに関して、様々なご要望があるかと思えます。どのようなことでもEメール（arfa@mx7.mesh.ne.jp）で、あるいはFAXで事務局代行まで（FAX 03-3372-6250）お寄せ下さい。